

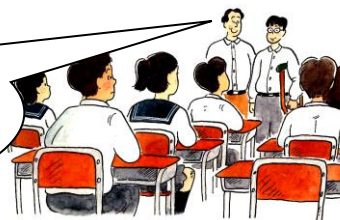
クラス道徳「松葉づえ」

あらすじ

転校生の大野君は、骨折の治療中で松葉づえを突いています。班やクラスのみんなは、移動や授業ノートの手助けなど、大野君に優しくしようと思いますが、伊藤君だけは先回りして親切にする必要はないと、積極的ではありません。しかし、大野君が中間テストで最高点を取ったり、将棋部で強さを発揮したりすると、だんだんみんなは手を貸さなくなります。

ある日、走ってきた女子が松葉づえにつまずいて転び、大野君を責める雰囲気になってしまいます。そんなとき、伊藤君が割って入り、「みんな、誰のために大野を助けてやってたんだよ。」と言います。

いろいろと大変なことも多いので、必要なときには手助けしてください。



移動の時や授業ノートの手助けなど、本当に必要だったのだろうか？
みんなだったら、どうするかな？

おい、大野の生活には、これは欠かせないものなんだぞ。

みんな、誰のために大野を助けてやってたんだよ。

伊藤君のこの2つの言葉を聞いた時、

「僕」はどんなことを思ったのだろうか？



伊藤君が見ているだけなのは、どうしてだろうか？

本当の思いやりとはどんなものだろうか？

人々の**思いやり**があれば、

小さな善意を

大きな貢献にかえることができます。

(ヘレン・ケラー)

みんなの感想

- 才能1つでここまで変わることができるんだと思った。思いやりっていき過ぎると、余計なお世話になるし、思いやりって不思議。(Aさん)
- 思いやりというのは大切なことだと思った。本当の思いやりは事前に決めておくのではなく、その場、その場で必要な対応をすることが大切だと思う。(Mくん)
- 本当の思いやりは、人に言われてするものではなく、自分のためでもなく、相手の気持ちになって共感してあげることがとても大切だと思いました。前もってしてあげるのではなく、その場その時に応じてさっとできるのが本当の思いやりだと思います。(Hさん)
- 僕は太野くんを無意識に下に見ていたから、テストや将棋に負けたことを認めたくなかったのかなと思いました。松葉づえをしているからといって、他のことができないって思うのは、思いやりじゃないと思いました。(Tさん)
- 思いやりとは、人に優しくできて、助け合える関係だと僕は思いました。思いやりについて深く知ることができた。例えば、思いやりでも、こういうあいまいな気持ちもあるんだなと思いました。思いやりの意味を深く知ることができて良かったです。(Dくん)
- 相手が困っていたら助けるのが思いやりやけど、押し付けるようにするのは自己満足やと思う。伊藤君のように相手が求めている時に助けるのが思いやりやと思う。(Tさん)
- 私は、「ノートをみせてあげる」や「将棋部に誘ってあげる」など、そう言っている時点で『思いやり』じゃないと思う。太野君は松葉づえはついているけど、みんなと何も変わらない一人の人間やし、それを特別扱いして「かわいそう」というのは間違っている。「かわいそう」じゃない。「かわいそう」ということで人を傷つけることもある。思いやりとは、相手が心から笑顔になれるようにすることだと思う。(Oさん)
- 思いやりとは、押し付けではなく、本人が困っている時に、手を差し伸べてあげられることだと思う。授業をして、困っている人に手を差しのべてあげる伊藤くんみたいになりたいと思った。(Hくん)
- 思いやりは、相手の事を素直に受け止めて接することだと思います。私はこの話を読んで、自分がテストの点数を抜かされたから、もう手伝わないと思わず、抜かされても素直に「すごいね」など言える人になりたいと思った。(Kさん)
- 本当の思いやりは、助けた人が「助けてあげた。」って思わないことだと思います。本当に思いやりがある人は助けることが普通で、それも「自分は助けた」みたいな自覚がないんじゃないかと思いました。この2つの差が最初に助けてた人と伊藤くんとの差かなと思いました。(Jさん)

「思いやり算」

「+ (たす)」。**助け合**うと、

大きな力になります。

「- (ひく)」。**引き受**けると、

喜びが生まれます。

「× (かける)」。**声をかけ**ると、

一つになれます。

「÷ (わる)」。**いたわ**ると、

笑顔がかえってきます。